（1）主題名　人間の強さと気高さ，生きる喜び　〔中学校３－（３)〕　関連項目〔１－（５)〕

（2）ねらい　人間としての弱さや醜さを自覚させ，それを謙虚に反省し，人間として生きる喜びを見いだし，向上しようとする心情を育てる。

（3）資料名　「足袋の季節」（出典：明日をひらく３　東京書籍）

資料の概要
筆者が少年の頃，貧しさと寒さに追いつめられ，大福売りのおばあさんから，釣り銭をかすめ取り，足袋の代金にしてしまう。おばあさんの「ふんばりなさいよ。」の一言が，足袋を手に入れることしか頭になかった筆者の心を大きく揺さぶる。その後，自責の念に駆られた筆者は初めて月給をもらっておばあさんに償いをしようと訪ねるが，そのおばあさんは既に亡くなっていた。

（4）学習指導過程

	学　習　活　動	主な発問と生徒の心の動き	留　意　点
導入	1　「足袋」から資料の世界を想起する。	○「足袋」について何か知っているか。 ・　一昔前は靴下代わりにはいていた ・　着物を着た時にはくもの	○主人公の「どうしても足袋がほしい」という気持ちを理解させるための導入。 ○実物又は写真の提示
展開	2　資料「足袋の季節」を読んで話し合う。 3　自分を振り返り，自分の生き方を見つめる。	○私は「うん」とうなずいたとき，どんな気持ちだったか。 ・しめた。これで足袋が買えるぞ ・貧しいおばあさんを騙していいのか ・ばれたらまずいなあ ○私が苦しみ続けたのはどうしてだろうか。 ・おばあさんをごまかして後悔の念が残っていたから ・甘い考えで，過ちを犯した自分に腹が立ったから ・おばあさんに対する「本当に悪かった」という気持ちを忘れられなかったから ◎おばあさんが私にくれた心とはどんな心か。 ・温かい励まし ・過ちを二度と繰り返してはいけない ・これから精一杯生きていってほしい ○今までの生活の中で，自分の心の弱さに負けてしまったことや，打ち勝ったことはないだろうか。 ・先生や友達に注意されて，素直に認めないで人のせいにしたことがある ・見たいテレビがあったが，テスト勉強をせねばと我慢して取り組むことができた	○教師の範読 ○時代背景や当時(1920年頃)の貧しい生活，北海道の気候についての解説をする。 ○人間は誰だって弱い心を持っていることを気付かせる。（共感，批判の立場からそれぞれ意見を出させたい） ○後悔の念はいつまでも残り続けていることを自覚させる。 ○過ちを悔い，謙虚に反省し，自己の向上に努めている作者の気持ちを感じ取らせる。 （ワークシートに記入させる） ○自分自身に向けて考えさせる。 （ワークシートに記入させる）
終末	4　詩を読む。	・いい詩だと思った。私にもいるかな，そんな人。私も見つけようっと「その人」を…。	○模造紙による提示をする。 ○『にんげんだもの』による引用。

実践報告にみる留意事項

１　資料・題材について

本資料は，道徳の副読本によく取り上げられてきたいわば名作に当たる話である。現代とは時代背景が異なるが，人間が持つ良心と取り返しのつかない後悔をしてもなお前向きに生きようとする主人公の姿は，現代を生きる子どもたちにも是非ふれさせたいものである。また，「ふんばりなさいよ。」という，嘘を知ってか知らずかの大福売りのおばあさんの言葉は，主人公の生き方に大きな影響を与えた。一生に一人はそのような人と出会えたらいいという相田みつをの詩とともに己の弱さを克服しようとする心情をじっくり味わわせたいと考えた。

２　指導過程の工夫

主人公の「足袋がどうしてもほしかった。」という気持ちを理解させるには，当時の様子や背景をある程度つかませる必要がある。そこで導入では実物の足袋を見せ，生徒の興味付けを図った。また，資料を読んだ後，１９２０年代，北海道の様子などの説明を多少加えた。展開では，主人公の気持ちに共感し，自分を振り返るよう段階を追って発問を組み立てていった。終末の詩『その人』（相田みつを）を紹介することにより，自分の生き方を振り返り，これからをじっくり考えることができた。

３　発問の工夫

このように時代背景が違い，主人公の気持ちにじっくり共感していくタイプの資料では段階を追っていく発問は効果的だった。また，発問の合間に教師のそれぞれの経験談などを織り交ぜたことで，主人公の気持ちをより身近に感じさせることができた。展開後の自分を振り返る発問は，心の弱さに負けてしまったという聞き方だけでは思いを出しにくいであろうと考えて，弱さに打ち勝った経験も併せて尋ねるようにした。

４　生徒の反応

発問一つ一つに積極的に答えるのではなかったが，指名をして何人かの生徒の意見を聞く中で，教室全体がともに考えていく雰囲気になっていった。

・おばあさんの一言はすごく重かった。だからこそ自分の弱さに勝てたと思う。
・　普通の優しさもよいけど，今日の話みたいに心と心の中でわかるだけの優しさもよいと思った。
・　自分の弱い心に負けたこと，勝ったことといっても，自分では思いつかないけど，この話を聞いて毎日弱い心に負けているんじゃないかなと思った。
・　自分がいけないことをした時に，「いけなかったなあ」と思えるようになりたい。

５　授業後のフォローアップ

生徒の意見や思いをすべて交流するのは難しかったが，授業後に教室に掲示したり，学級通信などで紹介したりした。相田みつをの詩『その人』は，授業で使った模造紙に書いたものを生徒の目によく触れる廊下に掲示した。

（吉田中学校）